

ぎふまちづくりセンター

代表者	西村 貢
所在地	〒500-8833 岐阜市神田町5丁目4
設立年月日	2001年4月18日
URL	http://www.gifumati.com/

【設立趣旨】

「住民」「企業」「学識者・専門家」による民主導型の開放組織であると同時に、「行政組織」との協働的關係において、持続力のある地域活性化の方途を提案する実践的な組織として「ぎふまちづくりセンター」を設立しました。

【沿革】

十六銀行・岐阜大学産学連携による地域活性化研究会の提案に基づいて、岐阜市、岐阜県、岐阜商工会議所を中心として2001年4月に設立し、市民協働のまちづくりや中心市街地の活性化、まちづくり団体交流会、ぎふ三十六景の選定実行委員会、金華山サポーターズの設立など、多面的な活動を行っています。

【活動目的】

社会の仕組みが様々な面で変化し、人々の価値観が多様に変化する中で、これから地域社会が活力をもち、持続的な発展を図れるようにするために、住民・企業・行政・研究機関等の役割分担と協働を促進し、岐阜市を中心としたまちづくりを総合的に進めます。

【活動内容】

多様な活動がありますが、都市景観サロンの取り組みを紹介します。

岐阜市の歴史的な基盤には、金華山麓の斎藤道三・織田信長が築いた岐阜町と、江戸時代に入って中山道加納宿とともに形成された加納城下町があります。私たちの最初の取り組みの一つの「ぎふ都市景観フォーラム2001 Action1」(2001年、図1)では、初めて岐阜市内の景観系のまちづくり団体が参加しました。都市景観サロンはこの後を引き継いで、継続的な活動を進めています。

岐阜市の歴史的地区である金華地区の中でも、長良川沿いの川原町では、長良川プロムナード構想やマンション問題をきっかけとして「川原町まちづくり会」が設立されました(01年)。各戸への門灯の設置や、正月などの松飾り、蔵でのコンサートや川祭りの復活など、住民の手によって出来るところから始めていく活動をベースとしています。更に建築士のグループや岐阜大学なども協力し、住民の手作りによって、川原町の「本物」の町並の特徴を盛り込んだ「まちづくり協定」(04年6月、図2)が結ばれ、その後も、市による高度地区による規制(06年8月)、無電柱化と道路修景事業(09年春完成)へと繋がってきています。

川原町まちづくり会は最初から観光が目的ではなく、住みやすい地域にすることを目的として掲げていました。しかし次第に、町並保全のルールに合わせた改修や建替えによるレストラン、カフェ、ギャラリーも増えてきて、町歩きスポットとして知られるようになり、最近では岐阜県の「明日の宝物」の1つにも選ばれています。

都市景観サロンではこの他に、金華地区の「伊奈波界限まちづくり

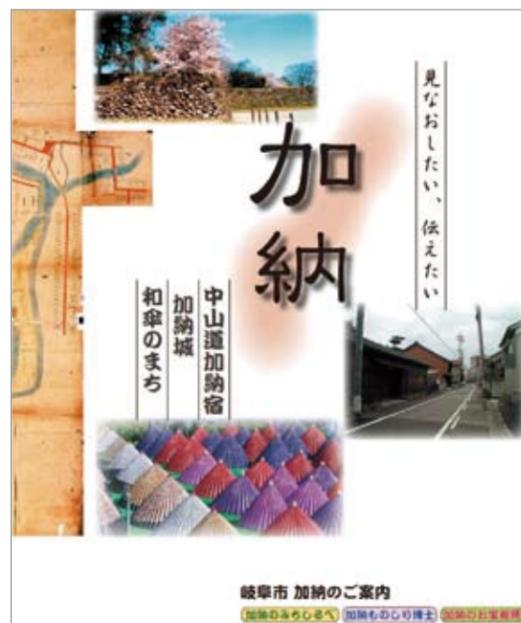


＜図1＞ぎふ都市景観フォーラム2001ポスター



＜図2＞川原町まちづくり協定

会」(02年)、加納地区の「加納まちづくり会」(04年、図3)の設立や活動を支援してきました。住民の手によるまちづくり会や、岐阜大学地域科学部、岐阜市、岐阜県岐阜振興局などが一体となって連携が行われてきたことが、活動のユニークな背景となっています。



＜図3＞加納まちづくり会作成 冊子「加納」

【活動上の課題と今後の展望】

私たちが数年来続けてきた都市景観サロンを母体として、金華の町家の保存と活用を図るために「ぎふ町屋情報バンク」を発足しました(07年12月)。古い町家に関心を持つ「オルガン」の若手グループと一緒に、地元の住民の皆さんとの交流を通じて、地域の魅力を伝えるために作成した冊子「古今金華」(06年、図4)も好評を得ています。

岐阜市の「ぎふ景観まちづくりファンド」(08年)の設立とも連携して、町家をお借りした「川原町寄席」の開催や、町家にお住まいの方からの聞き取り調査(岐阜大学地域学実習と、岐阜県建築士会の地域貢献事業を活用)、金華小学校同窓会の「昭和初期の岐阜町の思い出」(仮)の編集のお手伝いなどを行っています。

地域調査の中では、高齢化が急速に進んでいる地域の実情も浮かび上がっています。町家の建物の保全だけでは不十分で、多世代の住民が住み続ける事が出来るサステナブルな地域を目指さなければならない事が分かります。高齢化が進むコミュニティでは日常の買物の不便さや、住民の交流を改善することも図っていく必要があります。福祉や暮らし、若者の移住や還流など、総合的にまちを支えていく(サステナブルな)仕組みを考えると、都市景観サロンや町家情報バンクが、地元やNPO団体、行政と連携して、まちづくりを行っていかねばなりません。空き家を活用した住民の「たまり場」づくりや、野菜の販売などを通じた農山村との交流事業も検討を進めています。

今年度の新しい取り組みとしては、登録有形文化財である岐阜市上下水道部の「鏡岩水源地のポンプ室・エンジン室」(図5)の活用モデルとして、水の音楽ワークショップ、水の文化ワークショップ、水の映像ワークショップを開催します。参加者の意見や事後に開催する活用モデルワークショップを参考として、今後の当該登録有形文化財やその周辺を活用した実効性のある提案を行います。「ぎふまちづくりセンター」と、協働事業の実績もある「長良川文化フォーラム」、「オルガンデザイン室」、「岐阜市(教育委員会社会教育課文化財担当)」と協働で実施する予定です。



＜図4＞「オルガン」活動紹介 冊子「古今金華」より



＜図5＞鏡岩水源地のポンプ室・エンジン室